

FY2023.6 4Q決算発表 FAQ

連結

Q1. FY2024.6の営業利益はFY2023.6比でどのような想定か？

A1. FY2024.6においても成長と収益のバランスを意識した経営は継続するが、注力領域への投資において、GMVの大幅な成長に寄与すると判断した場合は積極的な投資を行っていくため、現時点で前年からの大幅な増益は想定していない。

Marketplace

Q2. FY2024.6の具体的な成長施策は？また、調整後営業利益率の通期目標が30-40%と、FY2023.6の実績より下落する想定である理由を教えてください。

A2. FY2024.6はよりGMVの成長にフォーカスした計画を策定している。継続的なプロダクトの進化および効果的なマーケティング投資に加え、投資効果を慎重に見極めつつ、主に新領域（越境取引、カテゴリー強化、BtoC等）への投資において、GMVの大幅な成長に寄与すると判断した場合は積極的な投資を行う予定。一方で、投資の費用対効果が計画比で見合わなかった場合や、GMV成長率の加速が十分に見込めない場合は、投資計画を見直すことにより収益性が向上する可能性がある。

Fintech

Q3. FY2024.6は通期調整前営業損失を計上想定としているが、黒字転換の時期はいつ頃の予定か？

A3. グループシナジーの創出に向けて、主に「メルカード」会員獲得・利用促進を目的とした投資を強化することにより、FY2024.6は通期調整前営業損失を計上予定だが、既存サービスを中心に強固な収益基盤が構築されており、大幅な調整前営業赤字にはならない想定。Fintechは、中期的に「メルカリ」GMVの最大化や決済手数料削減に貢献するとともに、メルカリグループにおける第2の収益の柱になっていくことを目指しており、投資を拡大しつつも、それを上回る利益の創出が可能と考えている。

US

Q4. FY2024.6は、どの程度の成長を見込んでいるのか？プラス成長に転じると考えて良いか？

A4. 引き続き外部環境が不透明なため、期初の段階でのGMVに関する通期目標の開示は見送ることとした。FY2024.6は筋肉質な経営を継続しながら、既存ユーザの利用活性化等に向けた効率的な投資を通じて成長軌道への復帰を目指していく。FY2023.6の上期までは積極的な投資を行っていたため、FY2024.6上期は前年度のGMVのハードルが高く、下期の成長により期待している。

Q5. FY2023.6 4Qも3Qに引き続きYoYで赤字が縮小傾向にあるが、この水準はFY2024.6以降も継続する予定か？

A5. 既存ユーザの活性化やZ世代の獲得に向けた各種施策など、中長期的な成長に資する投資は規律の範囲で行なっていく方針である。一方で、赤字額のコントロール自体はFY2024.6以降も継続する予定であり、大きな成長を見込めない限りFY2023.6下期の水準から大きく赤字が増加する事態は現時点で想定していない。

免責事項

本資料は、資料作成時点において当社が入手している情報に基づき策定しており、当社がその実現を約束する趣旨のものではありません。

以上